處蕃提要 貳

官

特別
イ 14
A219
2

早稲田大學圖書

注意

處蕃提要

巻之二

一 西郷陸軍大輔ヘ中将昇任宣旨並事務都督達 七年四月四日
一 大隈参議ヘ事務局長官谷陸軍少将赤松海軍少将ヘ事務参軍達 七年四月四日
一 臺湾蕃地事務局設置達 七年四月五日
一 西郷都督ヘ勅旨三條 七年四月五日
一 西郷都督ヘ特諭十款 七年四月五日
一 蕃行加俸規則 七年四月七日

門 イ14
號 A219
巻 2
305
2

一柳原公使ヘ内勅三條 七年四月八日

一生蕃進討ニ付逐次處分スヘキ條件 月日未詳

一西郷都督ヨリ征台軍卒ヘ達スル諭告 月日未詳

一英公使ヨリ寺島外務卿ヘ兵隊臺湾ヘ出発云々来東 七年四月九日

一寺島外務卿ヨリ英公使ヘ我官員等台湾社寮ヘ発遣云々復東 七年四月十日

一魯公使ヨリ同國人民ヘ台湾一件ニ付布告書 七年四月十一日

一台湾生蕃事務本支両局條約上申 七年四月十二日

一英公使ヨリ寺島外務卿ヘ局外中立ノ趣意来東 七年四月十三日

一寺島外務卿ヨリ英公使ヘ清國我ヲ敵視スルノ筋ハ無之云々復東 七年四月十四日

一英公使ヨリ寺島外務卿ヘ臺湾地方清國管轄云々復東 七年四月十六日

一第一報 第一号 西郷都督ヘ往復文書体裁云々往東 七年四月十六日

一第一報 第三号 大隈長官ヨリ西郷都督ヘ非常用金横濱東洋銀行ヘ申付云々往東 七年四月十七日

一横濵ヘラルド新聞紙日本兵ヲホルモサニ遣ル云々抄譯

一米公使ヨリ寺島外務卿ヘ新聞紙中日本征蕃ノ條款ニ付同國人民並船艦等使役禁制云々来柬 七年四月十八日

一寺島外務卿米公使ト臺湾一件應接記 七年四月十八日

一三條太政大臣ヨリ大隈長官ヘ米公使台湾一件異論云々覺書 七年四月十九日

一三條太政大臣ヨリ大隈長官ヘ御雇米國人及ヒ船艦差留云々往柬 七年四月十九日

一上野外務少輔米公使ト台湾一件應接記 七年四月十九日

一第廿四号寺島外務卿ヨリ米公使ヘ清國ニ對シ敵意無之云々復柬 七年四月十九日

一第卅三号米公使ヨリ寺島外務卿ヘ李仙得外二名台湾行差留云々来柬 七年四月十九日

一西郷都督一行ヘ事務會計官云々達 七年四月廿二日

一李仙得長崎ヨリ米公使ヘ日本政府ノ命令ヲ遵守云々復柬 七年四月廿五日

蕃地事務局

一都督本営ヨリ支局ヘ患者入院中給与概則云々来東 七年四月廿七日

一大隈長官長崎ニテ李仙得ヘ米公使異論有之同人外二名共渡蕃差留云々往東 七年四月廿七日

一第二号李仙得ヨリ大隈長官ヘ米公使異論ハ政府ト同公使両間ニ関係スル云々復東 七年四月二十八日

一米公使ヨリ在崎領事ヘ日本政府ノ命ヲ以テ留置云々電信 七年四月廿九日

一第三号大隈長官長崎ニテ李仙得ヘ還京談議云々往東 七年四月三十日

一李仙得ヨリ西郷都督ヘ米公使難事ヲ引起セルニ付処分ノ為メ東上云々往東 七年四月三十日

蕃地事務局

西郷陸軍大輔ヘ中将昇任宣旨並都督達

陸軍少将兼大輔従四位西郷従道

任陸軍中将　兼陸軍大輔如故

明治七年四月四日

陸軍中将西郷従道

台湾蕃地事務都督被　仰付候事

明治七年四月四日

大隈参議ヘ長官外二名ヘ参軍達

参議　大隈重信

台湾蕃地事務局長官被　仰付候事

明治七年四月五日

陸軍少将　谷干城

海軍少将　赤松則良

台湾蕃地事務参軍被　仰付候事

明治七年四月五日

事務局設置達

今般台湾蕃地処分ニ付事務局被置候事

明治七年四月五日

蕃地事務局

西郷都督ヘ勅旨三條

台湾蕃地事務都督西郷従道

台湾蕃地処分ニ付汝従道ニ命シ事務都督タラシム凡ソ陸海軍務ヨリ賞罰等ノ事ニ至ルマテ委スルニ全権ヲ以テス乃チ委任ノ條款ヲ遵奉シ黽勉従事其レ能ク成功ヲ奏セヨ

一我國人ヲ暴殺セシ罪ヲ問ヒ相當ノ処分ヲ行フヘキ事

一彼若其罪ニ服セサレハ臨機兵力ヲ以テ之ヲ討スヘキ事

一 尓後我國人ノ彼地方ニ至ル時土人ノ暴害ニ罹ラサル様能ク防制ノ方法ヲ立ツヘキ事

御名　御璽

奉勅　太政大臣三條実美

都督府印影

雛形

大

小

西郷都督ヘ特諭十款

特諭

台湾蕃地事務都督西郷従道

明治四年十一月我琉球ノ民漂流シ台湾ノ蕃地ニ至リ土人ノ為メニ劫殺セラルヽモノ五十四名又タ六年三月我小田縣下備中浅江郡ノ住民佐藤利八等四名漂流シテ又為ニ衣類器財ヲ掠奪セラレ其土人兇暴ヲ逞フスルヤ如此而シテ支那政府ノ管轄ニ属セス化外自肆ニ任ス若シ棄テ問ハスンハ後患何極ラン今膺懲ヲ行フノ

蕃地事務局

蕃地事務局

意ハ彼野蛮ヲ化シテ我カ良民ヲ安スルニ在リ宜シク斯旨ヲ体シ左ノ條款ヲ遵守シ以テ従事スヘシ

第一款

一第一著眼トスヘキハ土人ノ服従セル者ハ専ラ恩恵ヲ以テ之ヲ懐ケ綏スルニアリト雖モ若シ抗敵シ服セサルニ於テハ兵威ヲ以テ之ヲ制壓スヘキ事

第二款

一鎮定後ハ漸次ニ土人ヲ誘導開化セシメ竟ニ

其土人ト日本政府トノ間ニ有益ノ事業ヲ興起セシムルヲ以テ目的トナスヘシ

但シ此場合ニ於テハ支那政府トノ関係及ヒ後来ノ利害等ヲ詳明ニシ上奏シテ命ヲ乞フヘキ事

第三款

一彼ノ地ニ手ヲ著クルニ方テハ支那人及ヒ他ノ外國人ノ妬猜ノ念ヲ引起シ我所属ヲ妨ルコ無ラシムルニ注意スヘキ事

第四款

一若シ支那政府ヨリ異議ヲ起スヿアレハ之ニ関係セス我北京在留ノ公使ヨリ応接ニ及フヘキ旨ヲ以テ答フヘキ事

第五款

一著手際ニ臨テ便宜支那人及ヒ他ノ外國人ヲ傭役スヘキ事

第六款

一行役員中ニ於テ少シモ不和ヲ生セシムルヿ無キニ注意シ毎事必ス協同商量セシムヘキ事

第七款

一李仙得ヲシテ輔翼タラシメハ其ノ考案ヲ諮ヒ且ツ土人ヲ懐服セシメ又支那地方官或ハ他ノ各國領事ニ對シテ応接等ノ事ヲ掌ラシムヘキ事

第八款

一支那管轄地ト犬牙錯雜スル処ハ能ク其経界ヲ明ニシ彼ヲシテ我ヨリ侵略スルノ嫌疑ヲ生セシムルヿ勿キニ注意スヘキ事

第九款

蕃地事務局

一此地ニ別ニ事務局ヲ開キ命令布告等総テ之ヨリ達スレハ凡ソ申請報告等一切本局ヲ経テ
上奏スヘキ事

第十款

一諸費用ハ務テ簡約ニ従ヒ濫冗ノ弊ナカラシムルニ注意スヘキ事

右條款ノ外細事ハ専决シ大事ハ上奏シテ命ヲ乞フヘシ

明治七年四月五日

御名御璽

奉勅　太政大臣三條実美

蕃地事務局

蕃行加俸規則 七年四月七日

第一條

今般出張ノ陸軍武官増給ハ少尉相當以上本給五分ノ三曹長相當以下本約四分ノ三ト定ム自餘ノ増加ハ一切之ヲ許サス

但東京出発ノ日ヨリ帰京ノ日迄之ヲ給ス下條亦然リ

第二條

諸省文官ノ増給ハ總テ旅費定則ニ不拘十等以上ノ輩ハ總テ本給五分ノ二十一等以下等外吏

ニ至ルマテ總テ本給四分ノ二ト定ム

第三條

一切ノ文官並少尉相當以上ノ武官ハ總テ各本給一ヶ月半分ノ金額ヲ以テ一時支度料トシテ下賜スヘシ且又職工ハ金五圓小使ハ金四圓人夫ハ金三圓ノ支度料ヲ支給スヘシ

但出張後縱令年月ヲ經ルト雖トモ支度料ハ出發ノ節一度ニ限リ決テ再ヒ給スルヲ許サス

第四條

海軍官員軍艦ニ乘組艦中ノ常務ニ服スル輩増給ノ規則ハ明治六年八月該省伺濟ノ俸給制ニ照準シ支那近海出張ノ例規ニ依リ五分ノ一ヲ支給スヘシ

第五條

既ニ前條艦中常務ニ服スル輩ト雖トモ便宜都督ノ命令ニヨリ陸地ニ上リ事務ヲ奉スルトキハ其ノ上陸ノ日ヨリ再ヒ軍艦ニ復帰スルマデノ間オヨヒ軍艦ニ復帰セス他ノ雇船等ヲ以テ航渡スルトキハ總テ陸軍武官ト同一ノ支給ス

べシ

第六條

海軍官員軍艦ニ乗組ト雖モ艦中ニ常務ナク彼地着岸ノ上ハ陸地ニ於テ其職ニ従事スル輩ハ當度ノ渡航ニ限リ都テ外文武官同一ノ支給タルヘシ

第七條

海軍省艦中常務アル輩ヲ除ノ外事務都督以下諸文武官従者人夫等ニ至ル迄総テ東京出発ノ日ヨリ食費一日一人金二十銭ヲ以テ會計部ヨリ取賄フベシ外ニ自用雑品諸費ノ用トシテ一日一人金八銭ヲ目途トシ會計部ヨリ辨給スルヲ則トス

第八條

他ノ文武官軍艦ヘ乗組ト雖トモ海軍省俸給制ニ照準セス各本官ノ支給タルヘシ

第九條

當度随行ノ中都督ノ命令ニヨリ特ニ本朝ヘ往復スルトキハ海陸旅費悉皆現実仕払ノ高ヲ支給スベシ又當度随行ノ外政府並事務局ノ命令

ヲ奉シ蕃地ヘ往来スルノ輩ハ此加俸規則ノ支度料増給ヲ賜リ外ニ海陸旅費悉皆現実仕拂ノ高ヲ支給シ蕃地滞在中ハ第七條ノ通リ食費等支給スヘシ

但往来旅行中ハ実費拂ノ故ヲ以テ第七條食費等ハ賜ラサルナリ

第十條

隊外下士官相當ノ者ハ本給一ケ月半分ヲ支度料トシテ賜ルヘシ

右ノ通リ相定候事

明治七年四月七日

柳原公使ヘ内勅三條

内勅

特命全權公使柳原前光

一明治四年十一月我琉球ノ民漂流シ台湾ノ蕃地ニ至リ土人ニ刧殺セラルヽ者五十四名又六年三月我小田縣下備中淺江郡ノ住民佐藤利八等四名漂到シテ亦土人ノ為ニ衣類器財ヲ掠奪セラル其暴ヲ為スヤ如此其土人蕃域ヲ分チ嵎ヲ負ヒ暴ヲ恣ニスルヤ久シ然レ𪜈清國ノ政權逮ハス乄其化外自肆ニ任セシハ迩年米國政府

ノ所行ニ因テ徵知シ且去年特命全權大使副島種臣ヲ清ニ遣シ換約ノ際曾テ此事ニ談シ及ホシ該國大臣ノ所答ニ拠リテ証蹟判然タリ若シ棄テ問ハスンハ後患何ソ極ラン今膺懲ヲ行フ意ハ野蛮ヲ化シテ良民ヲ安スルニ在リ敢テ釁隙ヲ隣國ニ開クニ非ス公使トシテ清國ニ駐スルノ際論此事ニ及ハヽ宜シク此意ヲ以テ答フヘキ事

一清國ノ政權蕃地ニ及ハサル如是蕃人ノ兇暴我民ニ加フル如是我今務テ安民ノ義ヲ行フ拒

ソ他國ノ異議ヲ容レンヤ但蕃地ハ清國府縣ノ治ト接壌スルヲ以テ恐クハ干係ヲ生セン其尋常當務ハ我派遣スル理事官ノ責任ニ帰スト雖モ事若シ至重ニ渉ラハ公使ノ職ニ拠リ須ク関切辨論シテ始終両國ノ和好ヲ保護スヘキ事

一琉球藩ハ自昔我控制スル所ニシテ既ニ冊封ヲ奉シ政化ニ服ス其清國ニ貢キ以テ貿易ヲ営ム如キハ未タ旧套ヲ脱セス若シ故ニ縁テ或ハ疑議ヲ来サハ須ク該藩從前我ニ帰服スルノ証例ヲ辨明スヘシ事両属等ノ名ニ渉リ枝節ヲ生

ス可ラサル事
臺灣ノ事ニ係リ以上各件ヲ訓諭ス若シ事情意表ニ出テ至重ニ渉ラハ政府ノ指令ヲ請ヒ進止遵行スヘシ

明治七年四月八日

奉勅　太政大臣三條実美花押

生蕃進討ニ付逐次處分スヘキ條件　欠月日

第一　速ニ出張ノ上下官員ヲ命スヘシ
但シ當分公告ヲ憚ル所アレハ内達ニテ苦シカラサルヘシ其所任及ヒ人員ノ事ハ別ニ仕組書ニ記ス

第二　東京ニ於テ整備スヘキ諸件ヲ右官員ヘ分任スヘシ其詳細ハ同ク仕組書ニ記ス

第三　海陸軍上下ノ俸給ヲ増加スヘシ
但シ將官以下曹長以下ハ常俸ニ五分ノ三以下ハ常俸ニ四分ノ三ヲ給スヘシ

蕃地事務局

第四　本営諸官ハ右ノ諸件ヲ議定シ各其所任ノ人ヘ托シ置急ニ長崎ヘ至リ熊本鎮臺営下ニ令シ殖民兵ノ徴募ヲナシ又彼地ニ於テ辦スヘキ諸件ヲ整備スヘシ

第五　各事分任ノ諸官ハ各其事ヲ整備スルニ幾日ノ工夫ヲ費スヘシト計リ日ヲ刻シ長崎ヘ會航スヘシ

第六　長崎ニ於テ凡十五日ノ際ヲ以テ全ク諸事ヲ成了シ総軍一同台湾ヘ航シ車寮港ヘ上陸スヘシ

第七　我兵車寮港ヘ至ラハ速ニ根據ノ地ヲ見定メ本営ヲ築キ之ニ拠ルヘシ

第八　清國本地人ノ蕃語ニ熟スル者数十名ヲ傭ヒ入ルヘシ

第九　台湾府ニ使ヲ馳セ征蕃ノ事由ヲ封シ生蕃人ト来往及ヒ諸物ヲ賣輸セサル様頼ムヘシ

第十　車寮ノ南北一線凡ソ熟蕃ニ属スル所ノ諸地ニ殖民兵一小隊或ハ半小隊ヲ分派シ之ニ拠ラシメ生蕃人ノ来往交易ヲ絶ツヘシ

第十一　生蕃東北岸ノ土蕃卑南（ピーナム）ニ殖民兵半大

隊ヲ出シ之ニ拠ルヘシ

第十二　右諸地ヘ分派スル殖民兵ハ其上下ヲ問ハス其中ニ長タル者ハ能ク土人ノ為メニ利益アル事ヲ設施シ其情和ヲ得ヘシ

第十三　右処分已ニ定リ生蕃人孤立ノ勢アルニ至ラハ各土ヨリ兵ヲ進メ生蕃人ノ罪ヲ問ヘシ彼速ニ服罪スルアラハ兇徒ヲ出シ之ヲ斬ニ処シ若シ我ニ抵抗セハ直ニ之ヲ誅滅シテ遺類ナカラシムヘシ

生蕃進討仕組書

一御進討ノ兵先ツ彼此ノ形勢ヲ料レハ軍艦一艘歩兵二大隊内一大隊ハ殖民兵ニシテ臨時徴募セル者合シテ一聯隊トナサ、ル者ハ其実蕃地ノ形勢ニ適セサレハナリ砲兵一小隊ニシテ餘リアルヘシ工兵輜重兵ハ演術未タ完了セサレハ外ニ代用スヘキ者ヲ傭使スルヲ要ス因テ之ヲ総括スル軍督将官一人参謀大中佐間一人書記官大中尉間二人書記生曹長軍曹間四人ヲ命スベシ

一歩兵二大隊砲兵一小隊ヲ彼ノ地ヘ運致スル

蕃地事務局

ニ九百五十馬力ノ火輪船五艘之ニ属スル預備
器械弾薬粮米営中及ヒ賄所備ヒ付雑具等及ヒ
臨時備入ノ人ヲ運致スルニ三艘其他近港廻航
ノ小火輪船二艘ヲ要ス此中大船二艘ハ更ル〻〻
長崎其他近港ヘ来往シ総兵ノ用度ヲ足スベシ
一清語英語ニ通シ兼テ交際ニ熟スル者各二人
ヲ随フヲ要ス彼地清國打狗(タコー)ト相接近シタレハ
清國官員或ハ各國領事人ヲ遣ハシ事由ヲ問判
スル等ノ事アルヘシ
一清國本地人ノ蕃語ニ通スル者四五名ヲ雇入
ルヘシ此事已ニ期會ニ後レリ送軍ノ日彼ノ地ニ於テ之ヲ得ンヿ別シテ至難ニ属ス因テ御雇入レノ米人レゼントルニ計リ打狗ニ立寄シムルヲ要ス
一蕃語ノ了解シ得タル者ハ和訳ヲ添ヘ之ヲ各
隊ヘ傳達スヘシ因テ其傳達官三名ヲ命スベシ
一海陸軍共ニ定額ノ外軍医十人ヲ増シ随ヲ要
スル此ノ役ヤ諸兵或ハ土候ニ慣レス疫疾ヲ受ル
等ノ者多カルベシ
一彼地風俗殊異日常所用ノ器材モ亦随テ同カ
ラサレハ物コトニ彼地ノ物ヲ用ユルニ至ラス
戦具ノ外ニ預メ用意スヘキ物多カルヘシ故ニ

陸上運輸ノ自由ヲ得シタメ人足二百人ヲ隨ヘシヲ要ス平定ノ後ハ彼地ニ留置キ殖民ノ部ニ屬スヘシ

一凡ソ砦ヲ築キ橋ヲ造リ道ヲ修ムル等土工兵ノ処分ニ屬スルモノ都テ前條雇入ルル所ノ人足ヲ使役スヘシ其器械ハ工兵ニ備ヘル所必用ノ具ヲ揀ミ之ヲ送ルヘシ

一凡ソ陣営ヲ築キ営具ヲ修造スル為メニ大工三十名ヲ備入ヘシ

一凡ソ陣中焚出シノ賄方兼テ諸営ニ雇来リ其事ニ慣タル者六十五人ヲ雇入ルヘシ士官以上ニ五人歩兵毎一中ニ六人砲兵一隊ニ十二人ノ積

一銃工縫工靴工ハ兼テ歩兵隊人員中ニ附屬スル法則ナレヒ軍給ヲ以テ隊ニ列セル程ノ者ハ必ス其技ニ拙ク倉劇間ノ用ニ達セサルヘシ因テ外ニ其業ヲ営ムモノヲ雇ヒ入ルベシ

以上雇役ノ者都テ軍吏ノ所轄ニ屬スヘシ

一砲隊ハ馬ヲ発スルヲ是トス彼地馬ヲ生セス又山多ク馬不便ナリ因テ馭者ヲ遣シ置キ吏卒ヲ雇入之ヲ遣スヘシ

蕃地事務局
蕃地事務局

一営中常用消耗品ハ定額ノ外多ク之ヲ用意スヘシ「ランプ」及ヒ炭油ハ運送ニ不便ナルノミナラズ後日彼迯港ニ於テ之ヲ得ヤスカルヘケレハ其代リニ蠟燭ヲ倍輸スヘシ

一被服寝具ハ現在所用ノ外暑中所用ノ分一代リ用意シ置キ再遣ノ運送船ニテ之ヲ送ルヘシ但シ蒲團ハ藁ヲ抜出シ之ヲ運ブヲ便トス

一隊中備付雑具ハ當分必用ノ物丈ヲ運ヒ不急ノ者ハ之ヲ遣シ置キ重子テ之ヲ送ルヘシ

一賄所雑具右ニ準ス

一営中備付雑具ノ中椅子風呂水樽洗濯與手水與手洗桶水柄杓土瓶茶碗等ヲ至要トス別シテ軽便ナルモノヲ擇ミ之ヲ送ルヘシ但シ椅子ハ畳ミ置ヘキ様ニ拵ヘ帆木綿ヲ以テ張タルモノ風呂ハ桶様ニ拵タルモノ其余ノ諸器例外ニ多ク用意スヘシ

一軍中草鞋ヲ用意スヘシ彼地山多シ皮沓ヲ著ケ馳驅ニ便ナラサル事アルヘシ

一精米五百石(一人毎ニ一日五合ニシテ凡二千人五十日分ノ積リ)醤油五十石(一人毎ニ一日五勺ニシテ凡ソ二千人五十日分ノ積)ヲ送ルヘシ外ニ

乾物ヲ用意スルヲ是トス魚及ヒ獣肉ハ彼地ニ於テ之ヲ得ヘシ

一築営用ノ材木及ヒ釘ヲ送ルヘシ余カ察スル所ニハ彼ノ地松杉等ノ樹ナシ遽ニ総軍ヲ入ルヘキ営ヲ建ルハ中々容易ノ事ニアラス假令之ニ代ユヘキ材アリ𪜈彼地ニ於テ兼テ之ヲ貯ヘ置者ナカルヘケレハ偶々馴合サル土人ニ命シ之ヲ剪リ集シモ甚難事ナリ左スレハ諸兵ノ困弊ヲ来シ必ス流疾ヲ生スル等ノ憂アラン今凡ソ四百人ヲ安住セシムヘキ程ノ屋作五間此一

間凡二間半ニ百間ト見做シ別シテ簡易ナル土間作リノ假営ヲ造レハ當地ニ於テ之ヲ切組ミ之ヲ運致スルニ過分ノ費ヲナサヽルヘシ

一日常至要ノ営具ヲ造ルタメ大小ノ杉板ヲ運ブベシ

一彼地ニ於テ土人ヲ使役シ及ヒ撫恤ヲ加フル為メニ新鑄ノ銀銭及ヒ投與ノ諸物ヲ用意スヘシ

一順従帰化ノ蕃人ハ我ハ良民タルヲ表セシタメ其服色ニ定メ之ヲ與フヘシ因テ紺色小倉織

綿服ヲ用意スベシ

殖民兵臨時徴募ノ主意

台湾生蕃地ヲ進討スルニ素ヨリ我精鋭ヲ足スト雖モ絶島荒地ニ客兵タル事ナレハ土人ノ反覆常ナラス戦ヲ結フノ外ニモ不断警備ノ労少カラサルヘシ且ツ廣ク地歩ヲ占メ漸ク略定ノ実ヲ收メシニハ実ニ多少ノ兵ヲ要ス因テ今臨時適宜ノ活法ヲ設ケ更ニ殖民兵一大隊ヲ徴募シ常備兵一大隊ト共ニ之ヲ出スヘシ然ル時ハ戦ニ後慮ナク兵ニ余体アリテ平定ノ後ハ各其占ル所ノ地ニ拠リ小分営ヲ築キ永居ノ計ヲナ

スヲ得ヘシ試ニ殖民兵徴募ノ法ヲ述ル左ノ如シ

一上士官ハ現在非職ニシテ家ニ在ルモノヲ命スヘシ兵卒ハ熊本鎮臺管下ニ属スル諸縣ノ士族郷ニ一タヒ兵役ニ入リ東西ノ役ニ労効シ一旦解散業ヲ失ヒシ者ヲ集メ其強健役ニ堪ユルヤ否ヤヲ閲シ之ヲ募ルヘシ

一年齢ハ二十歳以下ヲ限ルヘシ但シ家ニ老父母アリ妻子アリ一家生養ノ主タル者ハ之ヲ除クヘシ又其強壮衆ニ出テ兵役ニ堪ユヘキ者服役ヲ願フモノ有ハ三十ヲ過ルト雖モ特抜ヲ以テ之ニ加ヘシ

一服役期限ナシ彼地平定ノ後時宜ニ従ヒ移住ヲ命スルヿアルヘシ然ル時ハ隊伍ニ列スト雖モ本人ノ望ニ随ヒ尚其妻子親属ヲ携ルヲ許ス其内疾ニ依リ疲羸役ニ堪サル者ハ隊伍ヲ除テ他管ノ処分ニ付ト心得ヘシ

蕃地事務局

一討蕃一挙ニ付至急可取計件

一凡百五十馬力程ノ運輸船八艘ヲ用意スル事

一凡二十五馬力程ノ運輸船二艘ヲ用意スル事

一清英両國ノ語ニ通シテ兼テ交際ニ熟スルモノ各二人ヲ命スル事

一清國本地人ノ蕃語ニ通スルモノヲ傭ヒ入ル事 此事台湾打狗ニ於テ之ヲ辦スヘシ

一蕃語傳達官三人ヲ命スル事

一軍医定額ノ外十人ヲ増スル事 此事佐賀出兵総督随行ノ内ヨリ之ヲ命スヘシ

蕃地事務局

一人足二百人ヲ備ヒ入ル丶事 此事長崎ニ於テ之ヲ辦スヘシ

一陣中賄人六十五人ヲ雇ヒ入ル丶事 此事佐賀兵ノ内ヨリ之ヲ命スヘシ

一銃工五人縫工靴工各十人ヲ備ヒ入ル丶事 此事佐賀出兵ノ内ヨリ命スヘシ

一大工三十名ヲ雇ヒ入ル丶事

一豫備器械弾藥天戸等整備ノ事

一工兵ニ備ユル所ノ器械ヲ整備スル事

一常用消耗品ヲ買入ル丶事

一被服寝具等暑中ノ備ヲナスヘキ事

一椅子居風呂諸輿柄杓土瓶茶碗等ノ物ヲ例外ニ用意スヘキ事

一草鞋ヲ用意スル事

一假陣營ノ材ヲ切組ヘキ事

一杉板ヲ用意スル事

一蕃人使役及ヒ撫恤用トシテ新鑄一圓以下銀銭一万圓ヲ用意スル事

一同ク手拭雨傘ガラス製鏡

一紺色小倉織綿服一万ヲ用意スル事

西郷都督ヨリ征台軍卒ヘノ達 欠月日

諭告

一御軍艦乗組中ハ陸軍トイヘドモ海軍ノ法度ヲ遵守スルヲ常トスレハ総テ銘々軍秩ヲ紊スヿナク各自ノ司令官ノ命令ニ服従スヘキハ勿論艦内ノ規則篤ク遵守スヘク若シ不案内ノヿアラハ軍秩ヲ逐ヒ銘々所属ノ司令ニ聴糺スカ若クハ各自ノ掛役人ニ問テ而後行事ニ服スヘキ事

一全体ノ御趣意専ラ征蕃懐柔ノ儀ニ有之候ヘ

ハ銘々厚ク其御趣意ヲ奉体シ生蕃ニ對シ必モ踈略手荒ノ取扱等アルヘカラサルハ勿論假令一時戦闘等ノコトニ及フ氏残忍苛酷ノ挙動之レナク専ラ生蕃ヲシテ本邦ノ威武ヲ畏レシメ兼テハ皇國ノ恩恵ニ懐カシムルヿ専要ニ之レアリ聊モ乱暴劫掠ノ所行ニ類シ候ヿ之アルニ於テハ嚴科ニ処セラルヘキノ事

一日本司令官ハ申スマデモ無之御雇外國人ハ政府ヨリ深ク御寄信アラセラレ既ニ本邦ノ官職ヲ帯シ候上ハ自他ノ差別アルヘカラサルハ

勿論ニテ聊カモ踈略ノ待遇無之様銘々篤ク心掛可申事

一総シテ上陸ノ上ハ敵地ニアリト相心得味方一同和睦万事力ヲ戮セ候ヿ肝要ニ有之候ヘハ一己ノ私憤ヲ以テ全体ノ大害ヲ引起シ候コト無之様銘々篤ク念頭ニ掛ケ仮令一己ノ屈辱ヲ受ルヿ之レアリ氏耐忍専一國家ノ大切ヲ妨クヘカラス

一物事次序ヲ正シ銘々自己ノ分限ヲ守リ紛混喧擾ノ弊無之様心掛ケ専要タルヘク兎角本邦

蕃地事務局

人ノ性質ハ高声紛争ナト有リ勝ノコトナレハ銘々篤ク相心得艦内ハ申スニ及ハス上陸後タリ𪜈群集中ニテハ専ラニ粛静ヲ随一トイタシ外人ノ嘲リヲ受ヘカラサル事

一上陸後ハ各人皆水土ヲ服セサルノ地ニ有之候ヘハ一軍挙テ健康ヲ保シ候ヿ専要ニ有之就テハ銘々飲食ヲ節シ候ヿ第一ノ心掛ニ有之勿論軍中ノ儀ニテ日々ノ食料飲料トモ定量有之候ヘトモ銘々腹裏ノ消息ハ一己ノ意ニ任セ候コト故過量相成ラサル様イタスヘク万一疾疫相起リ候テハ其身一己ニ関シ候ノミナラス全軍ノ利害ニ関シ候ヿト篤ク相心得申スヘキ事

一其餘事柄ニ依リ時々布告ニ及フヘク候ヘ𪜈

右ノ條々ハ其司令々々ノ手ヲ歴遣軍一同ヘ遺漏ナク豫メ諭告ニ及フヘキ者也

月日　臺湾蕃地事務都督西郷従道

英公使ヨリ寺島外務卿ヘ兵隊臺湾ヘ出発風聞云々来東 四月九日発

世上ノ風聞ヲ承リ候ニ貴國兵隊多数并ニ兵粮臺湾ヘ運送致シ候為メ開港場ニ於テ各國船被相雇且ツ貴國政府ニ代リテ外國船ヲ聞當リ候世話人右兵隊兵粮臺湾中何レノ港ヘ貴政府ニ於テ運送被成候哉知レ兼候事ト相見申候右様ニ雇入候実情明白ナルハ重大ノ事ニ御座候且臺湾開港場ニ於テ我國人民所持致候物貨利益等不少候間貴政府同島ヘ兵隊御出発被致候ハ

何等ノ事ヲ被成候積リニ候哉且ハ兵隊兵粮運送致候外國船何ト申候港又ハ場所ヘ御廻可被成哉閣下ヘ相伺申候尤右ハ取急キ注意可致事ニ候間明日午後御面晤ノ節御書面ヲ以宜敷御回答被下候ハヽ辱存候敬具

英國公使

四月九日　ハルリーパークス

寺島外務卿

閣下

蕃地事務局

第四十四号　寺島外務卿ヨリ英公使ヘ我官員等臺湾社寮ヘ発遣云々復柬　四月十日発

昨日附ノ貴翰致披見候然ハ今般我政府ヨリ官員等臺湾地方ヘ発遣セシメ候ハ我明治四年十一月又六年三月我國民台湾ノ蕃地ニ漂到シテ或ハ切殺セラレ或ハ衣類器財ヲ掠奪セラレ極テ苛酷ノ所為ニ遭ヒタリ此土蕃ハ清國ノ政權不逮所ニテ曾テ北米利堅合衆國政府ヨリ使ヲ派シ処分セシ例ニ倣ヒ我政府モ當路ノ官員ヲ派シ右苛酷ヲ行ヒシ者等ヲ懲シ且ツ如此ノ悪

業ヲ停止シ後患ヲ防キ嗣後我國民航海ノ安寧ヲ保護スルニアリ右処分ニ付土蕃ノ暴挙豫防ノタメ警卒等差送リ候ニ付右運輸ノタメ外國船相雇ヒ總テ台湾蕃地社寮(ミヤリヤス)ト申港ヘ差向候事ニ候右ハ閣下ノ御問合ニ就キ御答迄如此ニ候

敬具

明治七年四月十日　寺島外務卿

英國公使

ハルリヱパークス閣下

魯公使ヨリ同國人民ヘ台湾一件ニ付布告書（四月十一日発）

下名ノ者ヨリ惣テ魯國ノ人民ハ此後再ヒ布告スル迄テ其身或ハ魯國ノ船舶ヲ台湾島ヘ進発スル目的ノ為メ日本政府ノ務ニ従事スルコヲ禁スル旨布告ニ及フ者也

横濱ニ於テ千八百七十四年四月十一日

魯國代理公使兼総領事

アイヲロウスキー

臺湾生蕃事務本支両局條約ノ儀上申 四月十二日

臺湾生蕃事件ニ付本支両局ノ間ニ於テ事務整理上支牾矛盾ノ憂無之為メ別紙ノ通條約取極置候間此段為御心得致上陳候也

明治七年四月十二日 大蔵卿大隈重信

太政大臣三條実美殿

別紙

臺湾生蕃事務本支両局條約

第一條

凡ソ外ニ事アルヤ内外相応セス本支相協ハスシテ其成功ヲ奏スルモノ有ルヿ鮮シ今ヤ生蕃ノ事タル最モ熟々之ヲ議シ深ク之ヲ圖リ協同通和スルニ非サレハ往々支牾矛盾スルノ憂ヒヲ免カレス故ニ都督ノ出発ニ臨ミ専ラ勅旨特諭ヲ遵奉シ更ニ本支両局ノ間ニ條約ヲ明詳ニスルヿ左ノ如シ

第二條

本支両局万里隔絶スト雖モ務テ彼我一体氣脉貫通セサルヘカラス因テ本支ノ間屢々文書ノ往復ヲ勉メ形勢事情細大トナク報告スルヲ要ス

第三條

文書ノ通達ハ廈門香港臺湾ノ三領事館ニ於テ擔當シ郵船ノ便電線ノ信其機會ヲ失ナフヿ無ク速達ヲ要スヘシ寸刻モ稽緩スルヲ得ス

第四條

長崎横濱ニ於テハ税関長官ヲシテ逓送ノ事

蕃地事務局

務ヲ擔任セシメ三港領事官ハ其職掌ニ對シ孜々勉励スルヿ皆政府ノ命スル所ノ如シ

第五條

支局ニオイテハ勅諭第十款ヲ奉シ諸般ノ費用専ハラ節略ヲ務メ本局ニ在テハ支局ノ需用ニ応シ務メテ貨幣糧食ノ解送ヲ速カニスヘシ

第六條

用度欠乏ナランヿトスレハ之ヲ本局ニ報知シ順次ニ送達ヲ俟テ之ニ當ツ可シ若或ハ事ノ

非常ニ出テ急遽ノ際金銀貨幣必需ノヿアレハ直ニ香港ノ領事ニ乞フヘシ然ルトキハ領事ハ港出肆ノヲリーンタルバンクヘ命シ其需ニ応シテ一次五万弗ヨリ多カラサル金額ヲ支局ニ輸送スヘシ此時ニ於テハ速ニ之ヲ本局ニ報告シ其金額ヲ右バンクヘ償填スヘシ然ト虽モ此事ヤ臨機不得止ノ大事アルニ非レハ決シテ行フヘカラス

但ヲリーンタルバンクニハ豫メ其旨ヲ通達スル所ノ者トス

蕃地事務局

附紙

附紙

バンク支肆有無ノ儀ハ即今問合中ニ付モシ同所ニ無之候ハヽ相省可申候事

第七條

凡ソ事ノ樞密ニ渉リ暴露ヲ戒ムル事件ハ文書封緘ニ注意シ電報ニ於テハ明言ヲ用ヒス必符字暗号ヲ仮借スヘシ符字暗号ハ別ニ登記ス

第八條

特諭第九款ヲ奉シ官省ノ公布揭示及ヒ新聞紙等ハ時々本局ヨリ送達スヘシ支局ノ申請報告等ハ一切本局ヲ經ヘシ

第九條

經費ノ諸件ハ加俸規則オヨビ經費支給條約ニ照準スヘシ若シソノ條款ノ中改正ヲ欲スルコトアリト雖ドモ本支両局協議ヲ遂ケ而シテ政府ノ許可ヲ得ルニ非レハ妄リニ變更スルヲ許サス

右條件相約シ共ニ押印スル所ノモノ也

明治七年四月　日　大蔵卿大隈重信

蕃地事務局

事務都督西郷従道

蕃地事務局

英公使ヨリ寺島外務卿ヘ局外中立ノ趣意来柬 四月十三日発

本月十日附ノ貴翰致落手候然ハ今般貴政府ニ於テ臺湾ヘ兵隊御差向相成候ハ御國ノ管轄無之同島ニテ貴國人民ニ對シ苛酷ヲ行ヒシ土蕃ノモノヲ懲シ候事ニテ嘗テ亜米利加合衆國政府ニテ致セシ例ニ傚ヒ候トノ御主意委細致承知候就テハ拙者承知ノ処ニ於テハ貴政府ヨリ今般臺湾ヘ御差向被成候同様同数ノ軍勢未タ他ノ清國條約濟ノ外國ヨリ差向ケ候ハストモ雖

蕃地事務局

貴國ト清國ト往復ノ事ハ存シ不申候間清國政府ニ於テ右軍勢如何存候哉拙者ニオイテ難相辨依テ貴政府ニ於テ我國船舶又ハ人民御雇臺湾ヘ御差向ケ相成リ候ハヽ貴政府ニオイテ清國政府ニ敵對スト可被思様ノ事不被成積リ且ツ同政府如何ナル存寄有之哉不申出内我國人民此發舉ニ與ル時ハ清國ヘ對シ其責貴政府ニ當ルト申事閣下ヨリ拙者ヘ確報可有之尤モ貴政府ニ於テ此事件ニ付清國政府ト情実相通シ候事ニ候ヘハ差支無之候ヘ共清國政府ニテ右軍勢敵ニ致シ候ハヽ其舉ニ與リ候我國人民早速呼返サルヘカラスト閣下ニ於テ御了解有之事ニ存候敬具

英國公使

四月十三日　ハリエスパルケス

寺島外務卿

閣下

寺島外務卿ヨリ英公使ヘ清國我ヲ敵視ス

ルノ筋ハ無之云々復柬 四月十四日発

本月十日附ヲ以テ得御意候書翰ノ貴答致披見候陳ハ今般我政府ヨリ臺湾地方ヘ警兵差向候主意ハ此程ノ書簡及御面晤ノ節モ申陳候通リニテ閣下既ニ御了解有之候ヘトモ右ニ付猶御配意云々ノ趣モ有之候ニ付尚又左ノ通及御断候今般ノ挙動ハ同地方於テ嘗テ我人民ヲ劫殺シ或ハ掠奪ノ悪行ヲ相働キシ者共ノ罪ヲ懲シ嗣後右様ノ悪行ヲ制止シ患害ヲ防キ我人民航

海ノ安穏ヲ保護セントノ目的ヲ達センカ為メニシテ素ヨリ清國政府ノ懟ヲ惹クカ如キ処置ヲ成スニ非ラス抑同地方ハ閣下御承知ノ通リ清國政府管轄外ノ地ナレハ我政府ニ於テ貴國ノ船艦及ヒ人民ヲ雇用候トモ我ヲ敵視シ異議申出ツヘキ筋ハ無之儀ト存候此段御再答得御意候敬具

明治七年四月十四日　外務卿　寺島宗則

大不列顛國特命全權公使

ハルリーユスパークス

閣下

蕃地事務局

英公使ヨリ寺島外務卿ヘ台湾地清國管轄
云々復東 四月十六日発
本月十四日附ノ貴翰致落手候然レハ今般台湾ヘ軍勢被差向候テ清國政府ノ懟ヲ惹ク如キ処置ヲ為スニアラス且同地方ハ拙者承知ノ通リ清國政府管轄外ニアル哉否哉拙者ニ於テ不分明ニ有之清國表ニ二十年餘滞留イタシ候ヘトモ臺湾全島ハ清國政府ニテ所有致シ候積リノ様子ニ始終承リ居候処貴政府ニオイテ同政府所有ニ無之子細有之哉モ被相知難ク候間貴國

政府ニオイテ何ノ子細ヲ以テ今般軍勢被差向候地方清國政府管轄外ニ有之ト被存候哉御告知被下候半ハ忝存候清國政府右事件ニ付如何ナル存意有之哉未タ申出ス候間我國船艦并ニ人民貴政府御雇用ノ責ニ預ルトノ主意御申無之候ニ付同船艦人民御雇被成候トモ同政府ヨリ異議可申出筋無之ト被仰越タル閣下ノ意ハ拙者ニオイテ領解致ス事入用ニ御坐候敬具

四月十六日　ハリー、スパルケス

英國公使

寺島外務卿

閣下

第一報 第一号 西郷都督ヘ往復文書体裁云々往柬 四月十六日發

両局ノ間文書往復ノ体裁區々相成候テハ他日紛紜ノ憂不尠候間体裁書式別紙ノ通取調候條右ニ照準候ヘハ簡易ニテ錯雑不致様被存候間尚御勘考ノ上彼地ニテモ右ノ書式御採用有之度存候仍テ別紙相添此段及御掛合候也

七年四月十六日

別紙

國蕃往復書式

第一條

文書ハ長官名印ヲ用ルヲ則トス然レ圧事ノ
普通ニ属スルモノハ代理印ヲ用ルモ妨ナシ

第二條

第何報第何号ト首行ニ朱書スヘシ

第三條

回答ノ節及ヒ再議ノ時ハ煩冗ヲ省ク為メ第何報第何号ノ来書或ハ来諭ト指スヘシ又當地第何報第何号ヲ以申進云々ト書スヘシ

第四條

若其中ノ一條ヲ指ストキハ第何報第何号中第何條ト摘出スヘシ

第五條

電信ハ第何報トセス別ニ只何月何日ノ電報ト唱フヘシ若シ電報中ニ在テハ単ニ何日ト称スヘシ

右ノ通相定候テ書式雛形甲乙丙丁戊ノ五号ノ如シ

明治七年四月

書式雛形

蕃地事務局

甲

第何報第何号

今般何々左ニ及條陳候

第一條

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

第二條

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

第三條

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

右之通候也

年月日　官姓名　印

官姓名殿

乙

第何報第何号

何々ノ事件、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、此段申進候也

年月日　官姓名　印

官姓名殿

番地事務局

蕃地事務局

丙

第何報第何号

何々ノ儀云々、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

此段及御掛合候也

年月日　官姓名 印

官姓名殿

丁

第何報第何号

蕃地事務局

来諭第何報第何号御掛合ノ趣御申越ノ趣致承知云々、、、、、此段及御答候也

年月日　官姓名 印

官姓名殿

戊

第何報第何号

来書第何報第何号中第何條之趣致承知候第何條ノ儀ハ云々、、、、、、、、、、、、、此段御回答旁申進候也

第一報
第三号 大隈長官ヨリ西郷都督ヘ非常用金横濱東洋銀行ヘ申付云々往東 四月十七日発

今度本支両局條約第六條ニ準據シ非常急速ノ際必需之用度五万弗ヨリ多カラサル金額横濱東洋銀行ヘ申付候處同行承諾ノ上香港支店ヘ及通達候顛末別紙書面寫ノ通有之候依テ川嵜副監督印鑑二葉横濱東洋銀行ヘ相回シ置候様申達候處速ニ相回シ候間臨時差支有之間敷候別紙相添此段申進候也

七年四月十七日 蕃地事務局長官大隈重信

年月日 官姓名 印

官姓名殿

蕃地事務局

蕃地事務都督西郷従道殿

四月十七日「ヘラルト」抄訳

日本ホルモサニ兵ヲ遣ル事

余輩曩ニホルモサ征伐ノ一條ヲ刊行シタル以来別ニ詳報ヲ得ス其處置ノ曖昧異常ナルヲ以テ考フレハ日本政府ハホルモサニ兵ヲ遣ル目的ヲ明カニ世人ニ報知セサル可カラサルヿ必セリト雖𪜈ホルモサニ赴クヘキ船隊ヲ備ヘタル事ハ外政府ヨリ一ノ信スヘキ陳述ヲ得ス

臺湾即チホルモサハ支那帝國ノ境界内ニ在

蕃地事務局

ルヿ論無シトスレハ和親國ノ土地ヘ兵卒ヲ上陸セシムルハ豫シメ兩國ノ間ニ約ヲ定メテ相互ニ同意シタルヲ示スニ非サレハ其土地ヲ犯セルナリホルモサノ蛮民暴行ノ罪アルハ余輩之レヲ聞知セリ日本人之レヲ支那政府ニ訴ヘタルトキ支那政府ハホルモサ蛮民ノ所行ニ擔任セストヿ答ヘ日本人ノ意ニ任シテ償ヲ取ルヲ許ルシ若シ償ヲ得サレハカヲ用ヒテ強テ償ヲ取リ懲罰スルヲ肯ンシタルモ亦タ余輩ノ聞知スル所ナリ然レモ政府ハ此事ヲ公告スルヲ怠タリシノミナラス数面ノ應接ニ外國公使ヲシテ明カニ之レヲ知ラシメス此事ノ明瞭ナラサル間ハ後来ノ困難ヲ避クル為メ固ク局外中立ヲ守ルハ外國公使ノ職務ナリ其故ハ他國ノ土地ニ兵卒ヲ上陸セシムルハ戦争ノ原因ニシテ必要ナル政府ノ公告アルニ非サレハ其處置敵意ヲ表セリトセサルヲ得ス然レトモ東京政府ノ日誌ニモ北京政府ノ日誌ニモ是等ノ公告無シ実ニ異シムヘキヿナリ

蕃地事務局

支那ハ僻遠ノ所領ヲ管轄スル厳ナラスシテ威権十分ニ行ナハレス其地ノ主宰ニ良政府ノ要訣ト両立シ難キ大権ヲ与ヘ又魯西亜漸々其北境ヲ蚕食スレモ之レニ抗スル能ハサルハ余輩ノ知ル所ナリ然レトモ魯西亜ト日本トヲ比較スレハ其大小強弱固ヨリ同日ノ論ニ非ス支那ハ強大ノ魯西亜ニ許ルス自由ヲ恐ラクハ小弱ノ日本ニハ与ヘサルヘシ北京ニテハ日本ノホルモサニ兵ヲ遣ルヲ何ト看做スヤ未タ聞知セサレモ其目的ノ啻ニ一二ノ蛮民ヲ懲罰スルノミニアラス又島ノ東方ニ殖民シ終ニハ永ク之レニ占拠セント欲ス此ノ如キ日本人ノ挙動ヲ見テ支那人ノ意ニ介セサルハ余輩ノ信スル能ハサル所ナリ又目今日本政府ヨリホルモサ遠征ノ事ニ付テ北京ヘ遣差スル使節ノ巧言ノタメニ支那人ハ説服セラルヘシト支那人ヲ蔑視シ難シ假令日本ハ土地ヲ取ラント欲スル意無キニモセヨソノ所行常ニ異ナリ試ミニ之レニ類似スル例ヲ設ケテ論セン夫レ新ジーランド

蕃地事務局

島ハ英國ニ属シ島ニハ「マオリース」ト云フ
人種アリ名ハ英國ノ管轄ナレモ実ハ自カラ
随意ニ事ヲ處シ島内ニ在テハ英國政府サシモ
之レヲ制御セス假リニ亜墨利加ノ漁鯨船島
ノ海岸ニ於テ破船シ生存セシ者土人ニ殺サ
レタリト看做セ英國政府ハ土人ヨリ償ヲ為
サシムル力無シ然レモ亜墨利加人ノ英國ノ
領地ニ上陸シテ罪ヲ犯セル「マオリース」人ヲ
伐タン為メ兵ヲ遣ルニ任センヤ此問ニハ唯
一ノ答アルヲ知ル又亜墨利加人征伐ヲ為サ

蕃地事務局

ント決シ運送船ヲ備ヘント欲スルト看做セ
ハ亜墨利加人征伐ノ目的ヲ公告セス英國ニ
テモ亜墨利加人ニ征伐ヲ許ルシタリト明言
セサルニ他國ノ旗章ヲ竪タル船艦之レニ備ハ
ル、ヲ許ルサンヤ然ルニ日本在留ノ亜墨利
加公使ビンハム氏ハ獨リ同僚ニ反シテ支那
日本両國ニ於テ缺ク可カラサル公告ヲ為サ
ヽル間ハ半ハ劫掠ノ征伐ト看做ス可キ事ニ
其國旗ヲ揚ケタル船艦ノ使用セラルヽヲ明
カニ許シタルニ非ラサレハ暗ニ黙許セリ亜

蕃地事務局

墨利加政府ハ此征伐ノ真ノ目的ヲ十分ニ知ラサルニ似タリ否ラサレハ何ヲ以テ其國ノ官吏日本政府ニ使用セラレテ征伐ニ加ハルヲ許ルスニ至テンヤ亜墨利加ハ支那ト和好ヲ結ヘル國ナレハ他國ノ支那領ヲ攻ムルヲ助ケハ支那ヨリ損失ノ償ヲ要セラルヽ可シ若シセ子バニ於テ定メタル大理ニ本テ後来再ヒ仲人ノ裁断ヲ乞フヘキ事起リ英國ノ次ニ其大理ヲ犯シテ苦シム者ハ第一亜墨利加ナラハ実ニ奇トスルニ足レリワシント氏其

蕃地事務局

國人ニ紛乱ヲ招クヘキ盟好ヲ避クヘキコヲ勧メシハ賢ト謂フ可シ亜墨利加人方今ノ情状ニテハ早晩擾乱若シクハ失錯ニ陥イルヘキ事件ニ加ハリタルヲ後ニ悔ユルコアルヘシ

蕃地事務局

第三十二号 米公使ヨリ寺島外務卿ヘ新聞紙中日本征
討ノ條欵ニ付同國ノ船及人ヲ使役スルヲ
禁制云々来柬 四月十八日発
本月十七日發行「ジヤツパンデーリーヘラルド」
新聞紙中一條款アリ初メテ致承知候即チ日本
方今征討ヲ挙ク其目的タルヤ臺湾島ノ東部ニ
居留ヲ開キ随テ永世爰ヲ領畧スルニ在ル云々
又右條欵中確ト論セル趣ハ米利堅ノ國旗ヲ翻
セル米利堅船ヲ雇ヘリ然ルニ此儀ニ付テハ必
要至當ノ公告モ無レハ此挙ハ即チ半ハ掠奪ニ

属セル者ナリ而シテ米國公使ビンハム氏モ右船雇入ノ儀明許セストモ黙許致セシナリ又米利堅政府ニ於テモ士官ヲ其職務ニ雇入ルヽヲ許セシナレハ全ク此討征ヲ允可セシ者ナリ云々右ノ議論ハ貴政府ニ於テ清國ニ對シ或ハ其國民ノ一部ニ對シ戦争ヲ起サシトスル段厳然辨説有之候ヘハ米國ノ何レノ船カ臺湾ニ對シ陸海征討ノ為メ日本政府ヨリ御雇入相成候哉且又右征討ノ為メ何等ノ米國士官或ハ米國人民御雇入相成候哉承知致度候

拙者儀ハ斯ル戦争ノ為メ米國船或ハ米國士官雇入ノ儀ニ付談判ヲ受ケ候儀決テ無之米國人二名貴政府ニ雇入ラレ候者モ何レノ國ニ對シテモ戦争ノ為メニ雇入ラレ候儀ニ無之且又清國或ハ其他米國ト平和ナル何等ノ國ニ對シテモ閣下ノ政府ニ於テ争闘ノ挙動無之段確證中候

閣下ノ政府ニ於テ清國或ハ其人民ノ一部或ハ何等ノ他國或ハ其人民ヲ論セス拙者引証シタル如キ條款ニ由テ貴政府ニ帰スル如キ争戦ノ

御志的有之哉拙者直ニ之レヲ承知致シ度ハ我政府ノ當然要スル所ナリ故ニ閣下ニ於テハ猶豫ナク速カニ御報知有之度候若シ貴政府ニ於テ如斯事業ヲ行ハルヽ事ヲ拙者承知スルニアラズンハ貴政府ヨリ清國政府或ハ官員或ハ其國民中何部ヲ論セス之レニ敵對スルタメ陸海征討ニ我國船或ハ國民ヲ使役スルヿヲ拙者我政府ノ名目ヲ以テ公然拒ムハ拙者ノ職務ト相考候蓋シ如斯使役ハ我カ國法ニ由テ禁制イタス所ニ候敬具

於東京千八百七十四年第四月十八日

ビンハム

外務卿寺島宗則

閣下

寺島外務卿米公使ト台灣一件應接記四月十八日

一禮畢

米公使
昨日ノジャパンヘラルト新聞御覧被成候哉

卿
一覧イタシ候

右新聞ニ台灣ヘ出帆ノ軍勢米人又ハ米船ヲ雇候儀皆拙者ノ許セシ事ノ如ク書載有

蕃地事務局

之候モ先達テケプテーンノカッスルト
中者貴國ヘ被雇度願出候處其様ナル儀ト
ハ不存差許シ候右等ノ儀ニ付テハ千八百
六十年我政府ニ於テ中立規則ヲ相立候其中
ニ同盟國ト同盟國ト戰爭ノ節船及人ヲ貸
ス事ハ制禁ニ有之候只今御呼シ申上候儀
ノ如キハ此規則ニ及キ候事ニ付拙者職掌
上ニ於テ不都合ト存候間今朝上野君ノ御
出ヲ幸手紙ヲ差出置候
此手紙ノ趣ニテハ船及ヒ人ヲ雇フハ制禁ナル

旨モ副島大使昨年清國ヘ參リ候節同國政府
ヘ引合候其節リゼンドルモ共ニ相越候其上ニ
テ臺灣ヘ參リ候事ニ相成候併シ戰爭ニハ無之
且清國政府ヘ敵對候樣ノ事ハ決テ無之候
乍去清國領ノ人民ニ敵對スルハ如何
我人民ブウタンニ於テ殺害ニ逢ヒ候儀ニ付其
罪ヲ問シ為メ參リ候事故其外ノ場所ヘ上陸ハ
不致候
夫ハ清國政府ノ許可ヲ得テ參ル哉
副島ノ掛合ハ人ヲ遣ハシテ罪ヲ問フ事迄ニハ

無之候併シ清國政府ニテ臺灣ノ處置ハ不行屆
トイヘリ
清國ニテ不行屆故日本ニテ處分セヨト云
カ
左様ニハ不申候ヘ共清國ニ不搆候ハヽ何レニ
テ處分スル哉
若シ清國ニテ我領地ナリト云ハヽ如何
左様申サバ清國ニテ處分セ子バナラス故我方
ニテハ不搆
上陸ハ不為致ト云ハヽ如何

蕃地事務局

管轄行屆ケル所ヘ上陸ハ不致清國政府ニテハ
不行屆ト申事ナレハ我國人ノ上陸ヲ妨ケ候様
ノ事ハ有之間敷候夫故清國ヘ敵對ハ決シテ不
致候
清國政府ヨリ人ヲ遣リ罪ヲ問フテ宜シト
ノ許可ナキ時ハ清國ニテ戰爭ト見ルベシ
左様ニ見ヘルモ不知我方ニテハドコ迄モポニ
スノ積ナリ併シ其人ノ見様ニヨリイツレニモ
見ヘル夫ハ各ノ見ニアリ此ニ手續書御坐候其
餘ノ事ハ只今御咄シ申丈ノ事ニ候此手續書ニ

蕃地事務局

テ御考可被下候

　此時米公使手續書ヲ讀

此摸樣ニテハイコンミッショ子ル都督懸

合ニ被行候哉

彼地ノモノヽガ咄ノ出来ル人ナラバ十人カ五人

ニテ可行度々人ヲ殺ス樣ナル所故多人数連行

候ハテハ危シ

　然テハ都督ノ護衛ニ軍卒ヲ連行事ニテ清

國ニ敵對スルニハアラスト仰セラレテモ

新聞ニテハ敵對ノ樣ニ見ユカツスル儀我

蕃地事務局

海軍ヲ辭シテ貴國ヘ被雇度願出候ニ付許

セシガ其時ハ臺灣ノ事ハ未タ一向ニ不存

候今清國ニ敵對候樣ノ事ニテハ我國ノ規

則ニ背ク訳ニテ拙者職掌上ニ掛ル儀故手

紙ヲ差出候事ニ付敵對ハ不被成旨廉々御

返書頂戴致度候國許ヘ申遣候間此手續書

モ不苦ハ寫ヲ被下度候

承知イタシ候

　全ク日本ノ事ニテ我國ニハ関係無之事ナ

レモ若シ敵對トナレハ我職掌上ニ係ル故

蕃地事務局

伺度罷出候儀ニテ我國局外中立規則ハ清國並ニ日本ノ事ハ同様ナリ清國ヘ日本ヨリ兵ヲ向ケル時ハ清國ニモ日本ニモ加勢スヘカラス日本ヘ清國ヨリ兵ヲ向ケルモ同様ニ候夫故船モ人モ貸事ハ厳禁ナリ他日米政府ノ責ヲ受ル様ノ事ニ至リテハ拙者職掌上ノ不都合ニ候今般ノ儀若シ彼方於テ不法ノ事アリテ戦争ニ相成候トモ米人ヲ日本兵卒同様又ハ米船ヲ日本軍艦同様御使用ハ不被成儀ト信用致シ候

左様ノ事ハ決シテ無之候

今夕カ明朝迄ニ御返事被下度候

承知イタシ候

畢

蕃地事務局

三條太政大臣ヨリ大隈長官ヘ米公使台灣
一件異論云々覺書 四月十九日發

今般臺灣島御處分ニ付既ニ横濱ガセツト其他ノ各新聞ニ掲載有之候ヨリ各國人民ヘモ夫々傳播イタシ米國公使外務省ヘ出頭應接ニ曰ク此度台灣蕃地御着手ニ付兵隊等御差向ケニ付テハ支那政府ヘ篤ト御談判有之候上ノ事ニ候哉對テ今般着手ノ件ニ付改テ應接ハ無之候ヘ共昨年中副島大使々清ノ節台灣蕃地ハ政權ノ不及所全ク化外ノ民タル旨應答有之候ニ付此

度ノ處分ニ及候云々被索ヨリ米清及日本ニモ
互ニ對等ノ條約有之若シ両國ノ間紛紜ヲ生シ
候節ハ夫々和解取扱候トノ事モ條約上ニ掲ケ
有之旁以テ支那政府ヘ篤ト御熟議ノ上ニ無之
候ハヽ第一米國ノ艦船ハ勿論リゼンドル其他
日本在留ノ米人民一人モ貸渡候儀ハ決テ不相
成候ニ付在留人民ヘハ直ニ其旨布達可致リゼ
ンドル等ハ御雇ノ者ニ付宿所等モ不相分候ニ
付同人等達ノ儀ハ政府ヘ御依頼申度一体台湾
島ノ儀ハ支那政府ノ政令及不及ハ差置同國ノ

蕃地事務局

屬島タル事ハ各國トモ許シ認メ有之儀ニ付船
人トモ貸渡候節ハ支那ニ背キ日本ヘ荷擔イタ
シ候姿ニ付米清ノ交際上オイテ決シテ不相濟
云々我種々辯解モイタシ候ヘトモ到底直正ノ
條理ニ付外務卿オイテモ語塞リ候程ニ有之此
ノ他英國公使ヨリハ台湾處分ニ付英ノ損失等
モ醸シ候節ハ其償可致トノ條約申受度云々此
外各國公使ニモ種々ノ物議有之困却ノ事ニ有
之候
右ニ付至急評議イタシ候ヘトモ差向キ良策モ

無之依テ大隈参議ニハ早々帰京可有之西郷都督ハ長崎港オイテ再命有之候マテ滞在可致旨大隈ヨリ可申達福島九成儀ハ隔絶ノ地ニテ事情モ悉兼候有之間同人進退ノ儀ハ大隈参議ニ委任可致各國公使ヨリ如此紛紜議論差起リ候ニ付テハ此挙ノ成功無覚束ノミナラス清政府トノ交際上葛藤ヲ生シ候儀ハ必然ノ事ニ可有之ト一同評議候ヘトモ奇策モ無之候間西郷都督トモ篤ト熟談ノ上早急帰京有之候様可申達事

大久保内務卿モ不日帰京可相成報知有之候事

蕃地事務局

三條太政大臣ヨリ大隈長官ヘ御雇米國人
及船艦差留云々書柬（四月十九日發）
一筆進達候扨臺灣處置ノ事ニ付米國公使ヨリ
云々申立ノ次第有之候ニ付態々以使相達申候
右外務卿談判ノ顛末ハ即應接書從寺島可相廻
候間夫ニテ詳知有之度右米人リセンドル始人
員並船艦台灣ニ航行候事被差止候ニ付テハ第
一此節ノ一舉モ専ラリセンドルニ依頼シ殊ニ
外國ニ関係ノ事ニ至リテハ同氏ニ委任ニモ相
成居候處前條ノ次第ニ付テハ其儀モ不相整且

蕃地事務局

船艦等ノ需用モ被差止候上ハ此度ノ一擧成功ノ目的万々有之間敷所詮難施都合ニ立至リ可申且支那政府トノ引合モ唯柳原大丞昨年應接ノ次第ノミニテ此度手順ノ相立候引合ニモ不相成居支那政府ノ承諾無之ニ彼地ニ兵隊ヲ上陸處分相成候事各國公使追々議論相起リ外務卿ニモ兎ヤ角辨解ニハ相成候ヘ共何分於我政府手ノ不届次第ニ有之且各國ノ公論台灣ハ支那ノ版圖タル事判然タル上ハ何レ支那政府ヘ使節ヲ以テ遂應接候上着手ノ順序ニ不相成候

テハ相成間敷ト段々評議ノ次第モ有之候ニ付足下ノ處速ニ歸京相成候樣可被致今日ニ至リ如此次第実際ノ處分定テ困難配神ノ事ト存候已ニ時機ヲ失シ候上ハ致方有之間敷不得已足下歸京御沙汰ニ相成居候間何分早々上京可有之西郷都督儀ハ隨行官員兵隊諸艦ノ取纏モ可有之且前段ノ都合ニ付更ニ御委任ノ事件モ有之候ヘハ暫政府ノ命令テ相待候樣通達可有之仍テ北海丸長崎ニ回艦ノ儀相達金井内史差遣シ申候尚從同人可申入候亦福島参謀儀同港着

ノ上ハ足下ノ指令ニ従ヒ進退可致相違置候間
同人ノ進退ハ都合可然指圖有之度候右條々申
陳度如此ニ候也

四月十九日　　実　美

大隈参議殿

二伸足下御見帰ニ付テハ都督始諸官兵隊等
ノ取締ハ何トカ處分相附置不申テハ帰京モ
難致都合ニ可有之其邊可然協議取計有之度
候事

上野外務少輔米公使ト台湾一件應接記 四月十九日

米公使　貴下ニハ横濱ヘラルド新聞ニ此度日
本政府ヨリ臺湾征伐ノ條ヲ御覧相成候哉

少輔　未タ一見不致候何様ノ儀記載有之候哉
承リ度候

米公使　新聞紙ヲ一讀了テ

米公使　拙者日本政府ニテ臺湾ヲ御征伐可相
成儀ハ今日迄全ク承知不致此新聞紙ヲ見始
テ愕然仕候一体台湾ノ地ハ米政府ニテハ其

蕃地事務局

全地ヲ支那所属ト認允且ツ支那政府ト米政府トノ條約中ニ和親ハ勿論モシ他國ヨリ不公平ノ處置軽蔑ノ事等有之支那政府ヨリ其旨報知アラハ其中ニ立入リ相助テ調處シ友誼ヲ表スヘシトノ明文其第一款ニ載有之今日本政府ニ於テ米舶ヲ雇ヒ或ハ我人民ヲ使役スルニアタリ此ヲ傍観スル時ハ右條約ニ反シ却テ日本政府ヲ援ケタルニ當リ遂ニ支那政府ハ我國ニ對シ不和ヲ生シ其辯償ヲ責ムルニ至リ我政府モ亦日本政府ニ對シ其辯

償ヲ討求スルヲ得サルニ至リ互ヒニ親厚ノ交際ヲ破リ大ナル不都合ヲ醸出スヘシ万國公法上ニモ相背キ拙者ニモ同意難致候間直ニ我國旗ノ下ニ在ル船舶並ニ人民ハ此事件ニ係スルモノハ悉ク差留可申其旨公然外務卿ヘ御懸合可申含ニテ已ニ書翰出来居候御覧可被下候

少輔閣下ノ御懸念御尤ニハ存候ヘトモ此回我政府ヨリ臺湾ヘ船艦差出候儀ハ征討ノ為メニハ決シテ無之閣下ニモ既ニ御承知ノ如

ク我藩屬琉球島民五十余名彼地ニ漂流シ同島人民ニ殺害セラレ貨財旅資迄不残掠奪被致其後備中ノモノモ彼地ニ漂流シ同様貨財衣服等被奪取最惨酷ノ處置ニ遇候元来同島ハ琉球ノ近傍ニテ折々御國人等漂流イタシ候間此後右様暴虐ノ處置無之様彼島民ヘ約束セシメン為メニ西郷陸軍大輔ヲ其長官ニ命セラレ發遣サレタリ然ルニ前述ノ如ク同島ノ人民ハ無知残暴ノ者共ニ付西郷ニ對シ如何ナル擧動可致モ難計其為メ同氏保護トシ聊カ兵員差添ヘ候儀ニ有之其趣旨和親ニ出テ決シテ征討ニアラサル儀ハ貎下御承知有之度候

米公使　此度ノ擧支那政府ヘ公然御談判相成候後ノ儀ニ御座候哉

少輔　昨年副島前外務卿全権大使ノ命ヲ奉シ入清ノ節北京ニ於テ彼政府ノ大臣ヘ粗談判相成候處臺湾ハ支那政府化外ノ地ナル旨被答候由ヲ承リ候仍テ無據我政府ヨリ直ニ同島ヘ人員差遣候儀ニ立至リ候

米公使　如何ナル御書翰ヲ被遣如何ナル返翰
ヲ支那政府ヨリ御落手相成候哉
少輔　互ニ面晤ノ節口述ノ談判ニ有之別段書
翰ノ往復ハ無之候ヘ共我政府此度ノ擧ハ先
年貴府ニ於テ同島ニ被施候處分ト同様ノ目
的ニテ候
米公使　其儀ハ大ニ相違有之候其子細ハ曽テ
我政府ニテ處分候處ハ先其事件ノ支那政府
ニ公然訴出充分談判ヲ尽シ遂ニ支那政府ヨ
リ数人ノ兵員ヲ借入處置イタシ候夫故外國
ヨリ異議ヲ容レ候事無之候然ルニ此度貴政
府ノ御處置ハ公然書柬ニテ支那政府ヘ御懸
合相成候證據モ無之上ハ貴國ノ兵一人ニテ
モ臺湾島ヘ上陸候節ハ万國公法ヲ破リタル
ニ相當リ実ニ大ナル重事ト可相成モ難計候
間何分此度ノ儀ニ付我國ノ船舶或ハ人民御
使役相成候儀固ク御断申上候
先日貴政府ヘ御雇相成候我國ノ士官ハ此度
ノコトキ軍役ニ関スルモノニ非ラス只内國
事務ニ御使役可相成趣ニ付我政府ニモ同意

致シ候乍併如此事件ニ御使役相成候ニ付テ
ハ都テ差留メサルヲ不得究ニ付此書面御渡
申上候間外務卿ヘ御面會相願度何時罷出候
テ可然哉御報被下度候

應接畢ル

夫ヨリ景範其書翰ヲ携テ外務省ニ至リ外
務卿ヘ渡ス其書譯文別紙三号ノ如シ英文添
午後二時半米公使ビンハム外務省ヘ来リ
外務卿ト應接アリ其應接筆記別紙四号ノ
如シ

蕃地事務局

右應接了リテ外務卿ヨリ米公使ビンハム
ヘ返翰ヲ遣ハス其書別紙四号ノ如シ英文添但
翌十九日附
翌十九日外務卿ビンハム尋訪ノ處同人申
立ニハ昨日差出候書翰即三号ノ御返翰即四号
御論述ノ處何分不充分ニ有之其故ハ此度
船艦御差送リ相成候共支那政府ニ敵對ス
ルノ意無之只好意ヲ以テ後来ノ害ヲ除ク
ヘキ處分ヲナサンカ為メトノ儀ハ明了ニ書
載有之候ヘトモ事実同島ニ至リ兵隊上陸

蕃地事務局

第廿四號 寺島外務卿ヨリ米公使ヘ清國ニ對シ敵對ノ旨意無之云々復東 四月十九日

千八百七十四年四月十八日附貴翰落手一昨十七日横濱出板ノジヤツパン、ヘラルト新聞紙中ニ臺灣ヘ兵ヲ送リ右島東方ヲ占有セントスルノ主意ニ有之候處我國政府ニテ貴國ノ船ヲ雇入候儀ハ閣下默許被致且ツ貴國政府於テハ貴國士官被雇候儀許可被致候樣記載有之候ヘバ我國政府ヨリ清國又ハ其人民ニ對シ兵端ヲ開カレトスル趣意相含居候ニ

付我國政府臺灣ニ對シ敵對スルニ貴國ノ船又ハ人民ヲ仕使可致哉否且ツ爾清國或ハ其人民ニ對シ敵對可致哉否右両條早々承知被致度旨云々御申越致承知候然ルニ昨日御面晤ノ折モ委細申述置候通リ爾ニ生蕃我國漂民ヲ暴害セシ罪ヲ問ヒ後来我カ人民航海ノ安全保護ノ為メ相當ノ處置ヲ為サンタメ今般都督ヲ臺灣生蕃ノ地ニ遣ハシ候ニ付テハ万一彼ヨリ暴動ノ振舞有之哉モ難計候ニ付テハ保護兵差添遣シ候ニテ清國政府ニ對シ

敵對スルノ主意毫モ無之候就テハ貴國船舶人民相雇候トモ全ク平穏ノ目的ニ有之候左様御承知有之度此段御答旁申進候敬具

明治七年四月十九日　寺島外務卿

米國公使

ビンハム閣下

追伸今般都督派出ニ付テノ手續書御心得迄差進申候

臺湾出兵ニ付手續書

去一千八百七十一年第十二月臺湾生蕃地ニオイテ日本臣民五十四名殺害ヲ蒙リタルニ付其事情詰問ノタメ並ニ後来再ヒ斯ル兇悪ノ處置アルヲ防クニ須要タル基礎ヲ起サシ為メ爰ニ其防禦ニ足ルノ兵備ヲ附シ臺湾生蕃事務都督派出スルノ記事左ノ如シ

臺湾生蕃ノ為メ漂流人ノ残虐ヲ被ムルハ航海者並ニ其窮厄ノ際ニ當リ之カ保護ヲ與フル責任アル政府ニ於テ大ニ思慮ヲ苦ムルヿ

爰ニ多年ナリ然リ而シテ斯ル土蕃ニ對シ西洋諸邦〔ひ〕問罪ノ師ヲ擧シハ其例間々之アル所ナリ其結局ニ至リ南方土蕃ノ十八種酋長「ドーキトク」ヲ戴ク者終ニ英米ノ爰ニ加ル所ノ兵力果シテ抗スベカラザルヲ実驗了得シ一千八百六十七年度門兼臺灣擔任米國領事ト漂流人防禦ノ盟約ヲ致スニ至リ尓未其蕃能ク此盟約ヲ遵守シテ曽テ犯セシヿナシ〔ひ〕臺灣東濱ノ部ハ其地方未タ評明ナラザルカ故ニ「ドーキトク」所領ノ北方ニ在ル土蕃平撫ノ事業ヲ起スニハ先ツ其地理ヲ捜索通明スルヿ急務タリ然ルニ此業ヲ起スヤ莫大ノ經費ト勉力トニ非レハ能ハザルノ故ニ未タ曽テ何者ノ此事ヲ謀ルヿアラス今ヤ時勢ノ未リテ日本ヲシテ此仁慈ノ実業ニ憤起セシムルニ至ル

千八百七十一年第十二月十一日六十六名ノ日本人臺灣東方ノ海岸北緯大約二十二度十八分ノ地ニ於テ破船ノ難ニ逢ヒタル時妥シク彼地土人ノ一種屬タル「ボータン」人ノ為メ

ニ残殺セラレ幸ヒニ虎口ヲ脱シタル者僅カニ十二名ナリ千八百七十三年三月八日我國民四名臺灣ノ海岸「マバキ」ニ於テ破船ノ難ニ逢ヒ其積荷及ヒ所持ノ品ニ至ルマデ悉皆奪掠セラレタリ因テ客歳我國ノ使節北京ニ行セル際彼ノ兇徒等ヲシテ至當ノ罰ニ處セラレン事ヲ談判シタリト雖モ總理衙門之レニ答ルニ彼ノ地ハ清國藩屬タルニ非ル旨ヲ以テセリ清國地圖ヲ檢閲スルニ千六百三十五年和蘭人ノ臺灣島ヲ探索シ得タル彼島内清國

藩屬ノ地△咈地圖ヲ見ルヘシ即チ北方海岸並ニ西方ノ海岸ノ一部ノミヲ記載ス故ニ我カ使節ハ清國政府ノ固ク此論ヲ主張シ且「ボンリー」ヨリ「サウス」港「呂己口咈ノ圖ヲ見ルベシ」ヘ延亘セル山列アリテ清國ト生蕃臺灣地トヲ分界スレハ清國政府ニ於テハ其界外ヲ管轄スルノ意ナキヲ洞察セリ是ヲ以テ使節歸朝スルニ方テ事務都督ヲ生蕃臺灣ヘ派出スルノ準備ヲ為スヘキノ命ヲ發セリ是レ我カ國人ヲ残殺シタル其顛末ヲ捜索シ自今斯ル

慘酷ノ擧勿ラシムルノ處置ヲ爲サシメンカ爲メナリ今ヤ準備整々ニ及ヒタレハ應ニ日本ヲ發セントス此行軍兵ヲ率ヒ「ボータジ」人ヘ對シ威力ヲ示シ以テ上命ノ趣ヲ談判セシメ一滴ノ人血ヲ流サズ前罪ヲ謝シ自今斯ル暴擧ナク違背スルヿ有ラハ日本ニ於テ賠償ヲ講求スルノ條理アルヘキ旨ヲ保證セシメント欲ス

（ひ）○一千六百五十四年荷蘭人「ボータンス」種追討ノ擧アリ〈支那人著述臺灣征伐記一千六百六十一年七月五日「パリ」府ニ於テ「アヲランシトック」氏佛文ニ譯スル者第千六百六十三號三十六葉ヨリ三十七葉ニ至ルヲ見ルベシ〉

○一千八百六十七年第三月廿六日英國軍艦「コルモラント」艦長「ブロード」コールツヲ砲撃セリ

○一千八百六十七年第六月海軍提督「ベルクアリヲン灣ニ於テ海兵ヲ上陸セリ〈一千八百六十七年米國海軍卿ノ報告書第五十四葉ヨリ第五十七葉ヲ見ルベシ〉

蕃地事務局

ひ 此時ニ當リ領事清國人ニ説テ「ボンレ」ノ南ニアル臺湾生蕃ノ地ヲ合スルコヲ謀レリ 米國交際往復一千八百六十八年仝六十九年ノ部第五百〇五葉ヨリ五百十葉ヲ見ルベシ 然レ𪜈大政府此舉ヲ辭シタリ 米國通商消息一千八百六十九年ノ部第六十九葉ヲ見ルベシ

ひ 一千八百六十九年第九月「バシーブランド」船難破 在上海税関監督ノ命ニヨリ一千八百六十九年第十二月九日開板税関雑報ヲ見ルベシ 一千八百六十九年第十一月「ボールン」難破 一千八百七十年第二月十四日開板税関雑報ヲ見ルベシ 一千八百七十一年第七月「ロードンケフスル」船難破 在「タカウ」英國領事館ノ「ベルハムハレン」氏手記ノ紀事ヲ見ルベシ

蕃地事務局

第三十三號 米國公使ヨリ寺島外務卿ニ李仙得外二名臺灣行差留云々来柬 四月十九日發

在日本東京於合衆國公使館

千八百七十四年第四月十九日

閣下ヘ呈ス

一「フオルモサ」出兵ニ於テ米國ノ船ト其市民雇方ノ儀ニ付當月十八日附拙翰ニ當日附ノ貴翰ヲ以テ御返答ノ趣承知セリ

一昨日對面ノ節日本政府ニ於テハ支那國ニ係リ敵トスルノ心更ニ無之且此目論ム處ノ出兵

蕃地事務局

蕃地事務局

ニ於テ日本政府ニ雇フノ合衆國士官及ヒ船ト
モ静穏和順ノ企ニ雇入レ決シテ敵事ニ用ユル
ノ意ナキ旨ヲ閣下口演ヲ以テ請合ヲ為セシヿ
又此書翰ニテモ繰返セリ

一今日附ノ貴翰ト封書ノ意ヲ熟考スルニ於テ
ハ「フヲルモサ」島ニ出兵ノ御目論見ニ付支那國
ノ同意許可ヲ初メ書翰ニテ御落手之レアル迄
ハ米合衆國何船或ハ市民トモ陸海兵ニ関係シ
テ閣下ノ政府ヨリ右ノ島ニ之レヲ送ラル丶ヲ
拒ム事拙者ノ職務タル可キ旨餘儀ナク申出
ベシ

一閣下ノ政府ニ於テハ装兵ヲ保護シ「フオルモ
サ」生蕃ノ地ニ都督ヲ発遣シテ敵ノ處分ヲ為ス
ノ存意ナキト虽モ支那政府ニ於テハ之レヲ「フ
オルモサ」ノ地内ニ於テ彼國ニ敵對ナルト決ヲ
ナシ兵ヲ以テ會抗ス可シ則日本ノ為メニハ尤
モ不幸ナルカ故之レヲ防キ避ンニハ「フオルモ
サ」島ニ近ク進行ヲ為ス前以テ日本ニオイテハ
此度ノ出兵ト其目的ニ付支那國政府ヨリ慥カ
ニ同意ノ書付ヲ得ル可シ是レ実ニ各國ノ風習

蕃地事務局

仕来リニ基クナリ且ツ拙者是迄ハ支那政府ニ於テハ同意ノ趣ヲ日本ニ得之アル旨承知シタルト雖トモ拙者ノ落手スル書翰ニテハ事ノ證明ヲ見ス心痛スル處ナリ

一拙者口演ニテ達ヲ受ルニ閣下ノ政府ニ雇アル合衆國ノニウヨルク船及ヒ其國民三名「ゼ子ラル」リジヤントル、リユウテナント、コマンドル、カスセル、ワスソン」ハ出兵ノ儀ニ付支那國政府ヨリ同意ノ書ヲ日本政府落手スル迄ハ「フオルモサ」島ニ趣カサル様閣下ノ政府ニテ右御差留メアランヿ請願セリ謹言

エム、エー、ビンハム

四月十九日

寺島宗則閣下

寺島外務卿ヨリ米公使ヘ李仙得外二名台湾行差留ノ下命云々復柬 四月廿二日發

四月十九日附第三十三號ノ貴翰落手致披見候

処リゼンドル、カスヽル、ワツスン三氏ヲ此度臺湾ノ事件ニ付使用致シ候儀並ニウヨルク船ヲ運送船トシ相雇候儀閣下御不同意ノ趣ニ付早速我政府ヨリ差留ノ儀其筋ヘ下命相成候尤モ御托ノ右三名宛ノ御書翰モ速カニ相届候様取計置候右貴答如此候敬具

明治七年四月廿二日　外務卿寺島宗則

米利堅合衆國特命全權公使

ビンハム

閣下

西郷都督一行ヘ事務會計官云々達 四月廿二日発

別紙ノ通都督随行一般ヘ為心得達方ノ儀可然

御取計有之度候也

七年四月廿二日　臺灣蕃地事務局

西郷都督殿

赤松参軍殿

平井外務少丞殿

別紙

今般蕃行ノ會計陸海軍両省二途ニ相分レ且

他省ノ官員等混入有之候ニ付其會計ノ統括

難相立候處既ニ事務都督被置候上ハ陸海軍以下右等ノ小區分相廃シ総テ事務會計官ト相唱可申候事

七年四月廿二日　臺灣蕃地事務局

李仙得長崎ヨリ米公使ヘ日本政府ノ命令ヲ遵守云々復東（四月廿五日發）

於長崎千八百七十四年第四月廿五日

在東京合衆國公使

ジョン、エビンハム閣下

君

一拙者日本ト米國ノ両政府ヨリ外ニ諭示ヲ受ルマデハ貴下ノ憲見ニ於テ「フヲルモサ」等ニ拙者赴キ得サル旨貴下ノ記名シ且ツ合衆國ノ印ヲ捺シ千八百七十四年第四月十九日附書翰ヲ

以テ御通知ノ趣承知セリ因テ左ニ返書ヲ呈ス此ノ事件ニ付貴下ノ意思ヲ得感謝ニ不堪尚ホ貴翰ノ意ヲ深ク鑑考スルト雖トモ又拙者ノ右事件ヲ決定セシ事ハ米國ノ抜擢ナル評議役ベシヤイン。スミツチ氏ノ説ト同意ナル旨慥カニ拙者ノ秘書生ナル「ハウス氏ヨリ承知シタリ但シ此スミツチ氏ハ國内多事ノ折米國和聖頓府ニ在ル國政府ノ「レガルアトワイスル」(判者)ニシテ現ニ東京日本政府ニオイテモ同様ノ職ヲ奉セリ故ニ拙者ノ方向ヲ変セサルヘシ且ツ合衆國ノ

法ニ依テ拙者我政府ヘノ義務ハ心得置キ拙者ニ於テハ日本政府ノ命令ヲ守ルトス拙者ノ日本政府ニ雇レタルハ貴下先役在勤中強テ其官ヲ以テ拙者ヲ勧ムレハナリ此人ヨリ拙者ノ日本政府ニ仕ヘ職トスル其源因ヲ合衆國ノ政府ニハ通達シアリ則今現ニ務ムル所ナリ且右ノ事ニ助力ヲ與ヘンカタメ千八百七十二年第十二月中貴下ノ記録書類通覧アラン事ヲ仰請スヘシ此段新ニ謹テ高考貴下ニ備ン恐惶謹言

シ、トフリヨ、リシヤンドル

此書翰ハ大蔵卿大隈重信閣下ヲ以テ呈スル
モノナリ

都督本営ヨリ支局ヘ患者入院中給與概則
云々来柬 四月廿七日
蕃地出張陸海軍士官諸卒夫患者入院中給與概
則一冊為御心得及御廻送候也

明治七年四月廿七日　都督本営

蕃地事務支局御中

別冊

台湾蕃地出張陸軍文武官及諸卒夫患者
入院中給與概則

第一條　凡ソ文武諸官兵卒ニ至ルマテ疾病

ニ罷リ入院スルトキハ食料薬餌等一切公費タルヘシ

第二條　病症ノ軽重医官診断ニヨリ内地病院ヘ送移スルトキハ其入院ノ日ヨリ加俸ヲ止ム

第三條　同上ノ時尉官以上及文官ハ公病私病ノ別ナク本給ノ三ヲ給シ下士官以下公病ハ日給全数私病ハ日給三分ノ二ヲ給スヘシ
但隊外武官下士官相當以下ハ尉官以上ノ例ニ準ス

第四條　患者往復ノ入費ハ都テ官費タルヘシ

第五條　退院ノ後道路或ハ便船ノ都合ニ依テ滞在シ本務ニ服従セサルノ間ハ渾テ入院中同様ノ支給ニ〆宿料共公費タルヘキ事
但内地病院ニテ全快シ再ヒ出張スル時ハ其発程ノ日ヨリ加給ヲ給ス

第六條　諸工其他一時傭役ノ者公病ナレハ入院ヲ許シ食料薬餌ハ官費ニシテ傭給ハ三分ノ一ヲ與フ又病症ニヨリ内地ニ送移スル

時モ官費タルヘシ
第七條　同上私病ニ属スルモノハ食料薬餌ハ官費ニシテ備給ハ五分ノ一ヲ與フ
但数日ヲ経テ全快セサル者ハ其時ニ臨ミ處分スヘシ

臺湾蕃地出張海軍文官諸官及卒夫患者
入院中概則
第一ヶ條　艦船定員上等士官疾病ニ罹リ入院スルトキハ其艦船ヲ離レ去ルノ日ヨリ退院

當日迄食卓料ヲ止ム最モ入院中食料薬費ハ公費タルヘキ事
但病症ノ軽重医官ノ診断ニ寄リ内地病院ヘ送附スルトキハ其入院ノ當日ヨリ外國加俸ヲ止ム
第二ヶ條　定員外並隊附上等文武諸官右同上退院當日迄賄料ヲ止メ入院中食料薬費公費タルヘキ事
但同断内國入院中ハ其本給ノミヲ給ス全快ノ上再ヒ出張ノ時ハ発艦ノ日ヨリ加俸

ヲ給ス

第三ケ條　艦内教授役ニ上長及ヒ十一等相當ノ下士定員並定員外及隊附ヲ論セス日給ノ者ハ右同上其本給ノミヲ給スヘキ事

但内國入院中ト雖モ本給ノミ給シ其他列ナシ食料薬費ハ公費ノヿ全快ノ上再ヒ出張ノ時ハ発程ノ日ヨリ加俸ヲ給ス

第四ケ條　十二等相當下士以下同上日給ノ者ハ非役俸ヲ給ス

但書同上

第五ケ條　右本艦船ヲ去リ入院スル時ト退院スル時ハ其管轄ノ長次官及病院事務掛リヨリ其地出張ノ長官ヘ可届事

第六ケ條　患者往復ノ入費ハ総テ官費トス

第七ケ條　退院ノ後道路或ハ便船ノ都合ニ寄リ滞在シ其本務ニ服従セサルノ間ハ總テ入院中同轍ノ支給ニシテ宿料食料ハ公費タルヘシ

但其地出張ノ長官ヨリ許可ナキ者ハ宿料食料公費ニ立サル事

蕃地事務局

第一号 大隈長官長崎ニテ李仙得ヘ米公使異論有之同人外ニ名共渡蕃差留云々往柬（四月廿七日發）

手翰ヲ以テ申入候然ハ東京ニ在ル米國特命全權公使ゲヨンエビンハム氏儀今度フヲルモサ出張ノ事件ニ付異論有之貴下ヲ始メカッセルワッソン両氏ノ出張ヲモ我政府ヨリ差留候様四月十九日附ノ書翰ヲ以テ申立有之候段東京政府ヨリ申来候且同時ニ貴下及ヒ前條両名ヘ米公使ヨリノ書翰三通差出サレ貴下宛ノ書翰ハ拙者落手イタシ候ニ付即刻御達申置両名宛

蕃地事務局

ノ分ハ北海丸船中ニテ福島氏ヨリ夫々配達イタシ候ニ付ビンハム氏異論ノ趣ハ各委詳御承知ノ事ト存候因テ別紙米公使四月十九日付ノ書翰等相添前條ノ次第貴下ヘ及御達候條此旨領承前陳両名ヘモ御達有之度候敬具

明治七年四月廿七日　蕃地事務長官大隈重信

李仙得貴下

第二号李仙得ヨリ大隈長官ヘ米公使異論ハ政府ト同公使両間ニ関係スル云々復柬（四月廿八日發）

當月廿七日付ノ尊翰落手イタシ候然ハ臺湾出張事件ニ付清國政府ヨリ許諾ノ書面御落手アルマテハ合衆國人民及ヒ米利堅船舶ヲ日本政府ヨリ雇入相成候儀異論タル由米國公使ヨリ去ル十九日中立之レアリシ趣且同公使ヨリウテナントコンマンドルカツスルリウテナントワンスン及ビ拙者ヘ宛テ再度米國並日本政府ヨリ消息之アル迄ハ必ラス臺湾出使ト共ニ

渡航スヘカラストノ告知書寺島氏ヲ経由シテ
差送ラレ候趣ニテ右ノ内拙者宛一書ハ閣下ヨ
リ御達シ被下外両人ヘハ北海丸船中ニテ福島
氏ヨリ夫々ヘ御渡シ被成候趣御申越相成随テ
前條ノ趣リウテナントコンマンドルカッス
ル並リウテナントワッスンヘモ拙者ヨリ通達
イタシ候様御申越有之候右回答トシテ申上候
ハビンハム氏異論申立ノヿハ日本皇帝陛下ノ
政府ト米國公使トノ両間ニノミ関係スル事件
ニ付拙者爰ニ異論不致尤モビンハム氏ヨリ去ル

十八日付ノ書翰ニ對シ拙者相答置候次第ハ閣
下御承知置ニイタシ置度甲比丹カッスルリウ
テナントワッスンヘハ拙者昨夜面會イタシ此
事件ニ付存意書差出サセ置候ニ付別紙甲乙両
号書面ノ写差出シ候敬具

千八百七十四年四月二十八日

ジウイ　リゼンドル

蕃地事務局長官

大隈重信閣下

別紙

蕃地事務局

於蒸氣子ポウル船

千八百七十四年第四月廿七日

君

一拙者ヲ日本政府ヘ勤仕セシメント御雇入ノ儀ニツキ合衆國公使ヨリ政府ヘ書翰ヲ以テ故障申出ノ趣キ貴下ヨリ御通達ノ旨ニ依リ申述ヘタシ拙者ハ既ニ此ノ事件ニ付只ビンハム氏ノ慮見ノミヲ書翰ノミヲ書載セシ書翰一通同氏ヨリ落手セリ因テ拙者ハ此書翰ニ於テ些少ノ制限ヲモ受ルト鑑考セザルナリ

一ビンハム氏ヨリ政府ヘ何ノ故障ヲ為シタルトモ夫ハ全ク同氏ト日本政府ノ間ニアル事ニテ外ニ申出スベキ事更ニ之レナク且ツ拙者ヨリ些少ノ注意ヲモナスヲ望マサルナリ謹白

トウラス、カスセル記名

ゼネラル

シ、ドブリヨ、リゼンドル

蕃地事務局

於蒸氣ネポウル船

千八百七十四年第四月廿七日

君

一此度「フオルモサ」ヘノ使節ニ属シ拙者ヲ日本政府ヘ御雇入ノ儀ニ付合衆國公使ヨリ故障申出タル事件ニツキ書面ヲ以テ拙者ヨリ返答ナスヘク様拙者貴下ヨリ御達ヲ受ケリ因テ申出度拙者ハ右ノ事件ニ付ビンハム氏ヨリ書翰一通落手セリ然リト雖トモ書中ノ趣ハ只忠告ノ体ナルカ故ニ之レヲ毫モ注意セザルナリ如何トナレハ同氏ニ於テハ此書ニ付拙者ヲ妨グルノ権アルト拙者認メサレハナリ

一前件ニ付ビンハム氏ヨリ政府ヘ故障ナシタル儀ニ係リテハ拙者自ラ辞ヲ發スヘキ事情更ニ無之拙者ハ既ニ此政府ヘ雇レタリ因テ命セラルヘキ職ヲ奉ゼント其用意致シ居レリビンハム氏已レカ適當ト考ヘテ何庶故障申出ルトモ是ハ同氏ト日本政府ノ間ニアリテ談論ヲナスヘキ事ナリ謹白

蕃地事務局

ジヤス、アル、ワツスソン記名

ヲノレーブル

チヤレスドブリヨ、リゼンドル

番地事務局

米公使ヨリ在崎領事ヘ日本政府ノ命ヲ以

テ留置云々電信

長崎ニテ

合衆國領事

トブリユ、ピ、マンゴム

ニユーヨルク船ヲエキスペジーシユンヨリ

離レ先ニ進マザル様日本政府命シタレバ其

船港内ニ留メ置クベシ

千八百七十四年四月二十九日

シヨン、エ、ビングハム

番地事務局

第三號 大隈長官長崎ニテ李仙得ヘ還京談議云々

往東 四月三十日發

一長崎ニ於テ第二號ノ貴翰落手リウテナント コマンドルカツセル氏リウテナントワスソン氏有功丸船ニ乗組ミ發港ノ次第承知イタシ候

一フオルモサ島出使一件ノタメ雇入候米國人ノ儀ニ付合衆國公使中立ノ意ニ反シタル此新規ノ所行ニテ此上尚皇帝陛下ノ政府ノ處置ヲ煩ハスニ至ルヘシ然レトモ面晤ニアラサレハ運ヒ難キ辨論モ有之候ニ付政府重官ノ輔翼ヲ以

蕃地事務局

テ之ヲ合衆國公使ニ説與セハ同人モフオルモサ島ノ蕃地ヘ出使スル皇帝陛下政府ノ意ヲ速ニ解シ得テ此タメ同人ノ引起、セシ難事ヲ避ケ除カルヘシト信用ス此等ノ意ヲ貴下ニハ親シク承知アル故ニ前件ノ儀ニ付皇帝陛下ノ政府ノタメニ貴下合衆國公使ト談議アランヿ格別適要ナルヘシ且皇帝陛下ニ於テ、フオルモサ島ヘ使節ヲ發遣セシカタメ貴下ニ高職ヲ任シタル其希望ヲ達センニハ貴下東京ヲ指シテ發足シ、ビンハム氏ヘ面會セラルヽコソ右ノ意ヲ充分運ヒ得タリシヿト拙者固ク信用ス因テ此見込ミニ付貴下御同意ナレハ西郷都督ト談議ヲ遂ケ貴下ノ便宜次第速ニ長崎ヨリ發足アラン事ヲ希望ス敬具

明治七年四月三十日　事務局長官大隈重信

李仙得貴下

蕃地事務局

第三号 李仙得ヨリ西郷都督ヘ米公使難事ヲ引起セルニ付處分ノタメ東上云々往来 四月三十日發
別紙大隈氏ノ長崎往復第三号ノ書翰貴下ヘ差出申候随テ同氏ヨリ申来レル趣意ヲ帮助セシニハ左ニ陳述スル丈ケノ事件有之假合衆國公使ビンハム氏ハ貴下ヘ数ヘカラサル程ノ難事ヲ引起セリ因テ此ノ難事ヲ避ケ除カザル間ハ既ニ臺湾島ヲ指シテ出発シタル人々ト貴下ノ合体セラレシ事之レカ為メニ妨碍セラルヘシ亦タ彼ノ既ニ發セシ人々ハ若シ首長ナクシ

蕃地事務局

蕃地事務局

テ彼野蛮ノ土地ニ永ク滞居セラレ候或ヒハ最モ悲歎スヘキ命運ニ遭遇スル事アルヘシ而シテ予ハ現ニ臺湾島ヘノ使節ニ加ハリ同行ノ栄ヲ蒙ルニ皇帝陛下ハ予カ力ノ及ブタケハ貴下ノ為メニ盡スヘシトノ叡慮アラセラレタリ然リト雖トモ東京ニ於テ前條ノ難事ヲ正ニ處分スルコトナクビンハム氏不正ノ壓制ニ任カセント決定セラルヽ間ハ予カ此地ニ在ツテ貴下ノ為メニ用ヲナスヤ甚タ僅カナル事判然ナリ故ニ之レニ及シ予若シ東京ニ赴キ大隈氏ノ擇マレシ家ノ予カ奉スヘキ使命ニ付テハ假令予ニ不適當ノ事ト雖モ政府ノ重官ニ謀リ輔翼ヲ仰キ助力ヲ得テ以テ成功ヲ奏シ貴下ノ憂慮ヲ少フセント信用スル處アリ因テ貴下モシ此等ノ見込ニ付御同意アラハ其旨御回達アラン事希望イタシ候而シテ予ハ直チニ発足ノ用意可致候謹言

千八百七十四年四月三十日

李仙得

蕃地事務都督

蕃地事務局

蕃地事務局

西郷従道貴下

蕃地事務局

[illegible][illegible][illegible][illegible]局